

2011年 スキーオリエンテーリング世界選手権 報告書

March 20th-28th 2011 Tänndalen, Sweden



この度の東日本大震災により被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

2011年 スキーオリエンテーリング世界選手権報告書 表紙	
ごあいさつ.....	3
2011年スキーオリエンテーリング世界選手権への日本選手団派遣について	4
2011年スキーオリエンテーリング世界選手権大会報告書に寄せて	6
選手報告	8
堀江守弘（アークコミュニケーションズ）	9
高橋美和（長野県オリエンテーリング協会）	11
黒田幹朗（横浜オリエンテーリングクラブ）	12
酒井佳子（北海道旭川市）	13
渡辺幸（山形県立米沢東高校）	15
白鳥桂子（北海道札幌市）	16
高橋謙也（山形県立米沢興譲館高校）	17
島貫なつみ（九里学園高校）	18
渡邊志保（山形県立米沢興譲館高校）	19
公式記録.....	20
Sprint Distance - Men.....	21
Sprint Distance - Women.....	21
Middle Distance - Men	22
Middle Distance - Women	22
Mix Sprint Relay.....	23
Long Distance - Men	24
Long Distance - Women	24
Relay - Men	25
Relay - Women	26
大会風景	27
3月19日・20日 移動日.....	28
3月21日 モデルイベント・開会式	29
3月22日 スプリント	34
3月23日 ミドル	38
3月24日 ミックススプリントリレー	44
3月26日 ロングディスタンス	53
3月27日 リレー	60
競技地図.....	68
賛助金の御礼と報告	81
おわりに	83
義援金	84
裏表紙	

ごあいさつ

2011年スキーオリエンテーリング世界選手権への日本選手団派遣について



(社)日本オリエンテーリング協会 スキーオリエンテーリング委員長 高島和宏

3月11日に発生致した東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。今回の震災は選手団の出発予定日の約1週間前に起こり、直前の調整合宿が中止とせざるを得なくなりました。1996年以降、日本から毎回代表選手の派遣を続けてきていた世界最高峰の大会であり、何とか派遣を実施したいという気持ちと共に、このような未曾有の事態の中、選手権への参加をしてよいものかどうか判断に迷ったのも事実です。幸いにも選手、役員ともに直接被害を被った者はありませんでしたし、渡航のための交通手段も代替手段に変更が可能となったことを受け、自粛して取りやめるよりも、海外へのメッセンジャーの役割も担って参加した方が良いとの選手らからの意見等を汲んで、今回の派遣を実施した次第です。

今年は、世界選手権初参加となる高校生4名を含む選手9名と団長からなる総勢10名の日本選手団の派遣となりました。これは、日本で開催された前回大会に次ぐ規模の選手団であり、金銭的な支援をして頂いた独立行政法人日本スポーツ振興センターによるスポーツ振興基金助成によるところが大きいと感じております。この場をお借りして、あらためて感謝いたします。

今回の世界選手権の開催地は、本競技の盛んな北欧スウェーデンでの開催となり、地形的に高度なナビゲーション技術が必要となるだけでなく、ウインターシーズンの終わりに当たる3月下旬の開催であったことから、季節の変わり目の気象変化に合わせたワクシング技術も重要となる大会であったと思います。また、日本社会の年度末でもあり、社会人選手は、大会に向けたトレーニングに加え、仕事上のスケジュール調整をも含めて、かなり厳しい状況であったと思います。このような状況であるため、本来ならば、派遣役員についても充実させるべきでしたが、私自身も含め、ほとんどの役員が会社勤め等の社会人であることから、1名しか派遣できなかったことは、反省点だと思っております。

その他、本選手権は、「オリンピック種目採用を目指した大会」と位置付けられており、インターネット上でのライブ中継や上位選手のGPSトラッキングによる軌跡表示など、「魅せる」大会となっていた点は、特筆すべき部分です。当

協会としても、今後大会を主催・運営する上でとても参考になりました。選手の成績や参加状況に関しては、後段で詳細が記述されておりますが、過去最高記録の塗り替えはできなかったものの、全レースともに失格者を出すことなく、全員が完走できたことは、選手層の底上げが達成できている証しだと感じております。特に高校生の代表メンバーについては、まだまだ成長できる余地があると思いますので、今後の活躍に期待いたします。



2011年スキーオリエンテーリング世界選手権大会報告書に寄せて

WSOC2011 日本選手団団長 武石雄市

はじめに東日本大震災で犠牲になられた方々に哀悼の誠を捧げ、被災された多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

3月11日は、1週間前に代表メンバーが決定し直前合宿前日でそのまま遠征準備、遠征へと日程が定まっていました。そこに未曾有の東日本大震災が発生、東北一円は停電とともに二日間にわたって交通・通信が途絶えた。停電が回復して伝えられる情報は悲惨なものばかり、メンバー全員の無事を確認したのも四日後。航空路線の発着時刻変更もあり搭乗空港までのアクセスの心配もあったが、団長責任で遠征決定を決心し直ちにメーリングリストに流した。

大震災の最中、世界選手権大会へ参加決意した理由は大きく二つあります。一つはこの国難ともいえる状況を直視し、選手は弔意をもってレースをしていること伝え国内の惨状・窮状を生で訴える事でした。私たちは国旗に弔意の布を下げた弔旗とし、選手は黒い腕章を装着し弔意を表してレースに臨んだ。

二つ目は4人の高校生が代表になっていたこと。スキーO競技がわからないまま選考され「ラッキー！」と言った者もいるが、幼いころからスキーO大会に参加し今年がチャンスと実力を発揮して代表を獲得した者もいる。冬季アジア大会で初めてスキーオリエンテーリングが正規競技になったにもかかわらず、日本オリンピック委員会で未派遣と決断され、今やクーベルタン男爵の参加平和主義は日本では崩壊しつつあると感じているが、私は我が国のスキーオリエンテーリングの将来を担う者たちに折角のチャンスを与えてやりたかったことである。

世界選手権大会に日本選手が初参加してから今回が10回目です。10回目にして高校生代表は男女ともに初めてです。日本人の関わりをすべて見てきた私には灌漑深いものがこみ上げます。

私と私の家族は1994年近代スキーオリエンテーリングを国内に単独で導入して以来、多くの温かい協力者と継続した多額の賛助者を得て北欧及び北米コーチを委嘱することから始まり、大会運営をはじめ選手の育成・国際大会への派遣、JOAスキーO委員会の設置、欧州以外で初めてのWOC開催等様々な形で関与してきました。

他競技の世界的活躍選手は英才教育で公私の財力をつぎ込み、否が応でもメディアの関心を引いてその競技をメジャー化しているように見受けられます。オリエンテーリング競技は一般的メジャー化には疑問ですが、若年層選手が顕在化した

今、少なくともスキーオリエンテーリングの最前線にいる我々としてはI O Fがキャンペーンしている2022年冬季オリンピック登場にあらゆる努力を傾注するべきだと考えます。

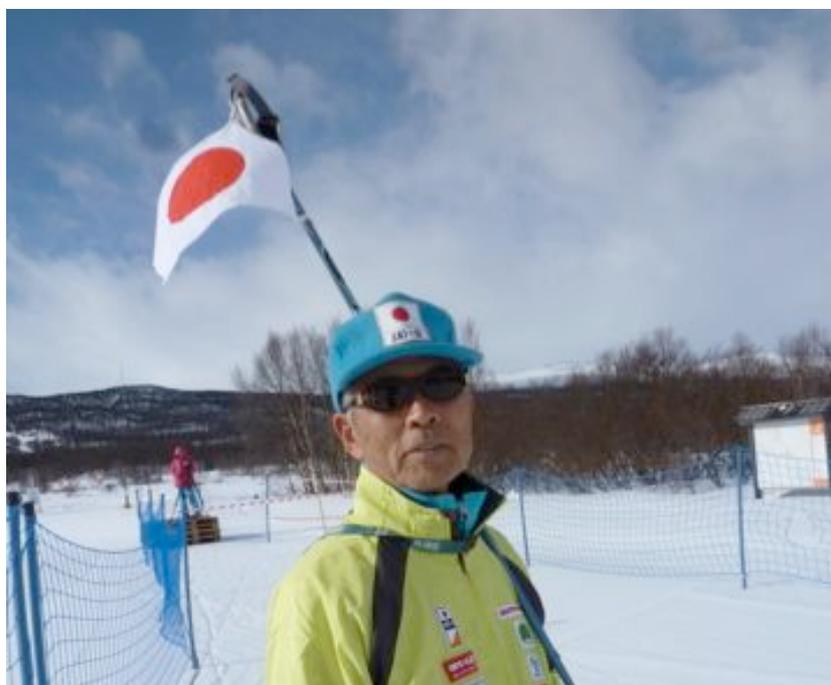
難問が横たわっているスキーO界ですが、老輩も持てる微力を注ぐつもりです、皆様、この有意なスポーツを国民に普及して雪を楽しむスポーツであることを伝えるフロンティアになりましょう。

最後になりますが、今回の派遣にあたってはスポーツ振興基金から選手強化助成金をはじめ、寄付金収集活動等多様多岐にわたり、多くの方々からご支援ご協力ご提供を賜りました、厚く御礼申し上げます。

本来は個々にお伺いしてご挨拶御礼申し上げるべきところですが別紙面にご芳名を掲載し、ご訪問を割愛させていただく失礼をお許しいただきたいと存じます。

以下選手の報告をご笑読頂き、今後ともスキーオリエンテーリングにご指導・ご鞭撻賜れば幸いです。

武石雄市



選手報告

堀江守弘（アークコミュニケーションズ）

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。

<大会前の意気込み>

世界選手権遠征は震災から一週後のことでした。代表メンバーの無事が確認できてからも交通網の遮断や電力・燃料不足、飛行機の運航変更など様々な混乱が続きました。その中でも皆様のご理解のもとメンバー全員がスウェーデンに向け出発できたことは幸いに思います。

私の住む東京でも余震が続き、電車ダイヤの乱れ、計画停電の影響があり、大会だけに集中することができない心境でした。しかし、今の自分にできるベストを尽くすよう気持ちを切り替えて大会へ臨みました。

<今大会で最も印象に残ったシーン>

ミックススプリントリレー

ミックススプリントリレーはオリンピックに向けて新たに導入された種目です。国際大会での開催は今回が初めてで、日本人として初出場できたことを誇りに思います。

レースは序盤からスピード感ある戦いとなりました。会場を飛び出し、吹きさらしの平原を進みます。積雪と強風でスキーオリエンテーリング用に圧雪されたトラックが消え、より高度なナビゲーションが試されました。

男子と女子、2人の選手がリレー形式でそれぞれ3回走ります。3回とも同じエリアを使用していたため、回を重ねるごとに地図とテレインに慣れてきました。するとさらなるスピードが要求され、小さなミスも大きな差となります。非常にハイレベルな戦いです。

男女で順位が大きく変動するため、上位争いはもちろん中堅国でも抜きつ抜かれつのレース展開となりました。日本はアメリカやイタリア、ドイツチームなどと順位争いを繰り広げ16位という結果でした。

また、ミックススプリントリレーではチームとしての戦い方も要求されます。選手は短いインターバルで疲労を除去し体力を回復させ、次の周回へスタートします。寒い環境の中では体を冷やさないことが大切で、防寒対策やドリンクは温かいものがよかったです。短い時間でのワクシングも必要です。レース展開を読みながらの戦略（どこで勝負するか、ペース配分など）も重要なため、チーム全

体のサポート体制が必要と感じました。

ライブ中継

今大会ではインターネットでの全世界ライブ中継が行われたことも特筆すべき点です。GPS とカメラの導入により、選手の動きがリアルタイムで大型モニターに映し出されました。運営者が頭に付けたヘッドカメラでトップ選手の後ろを尾行した映像は自分がスキーオリエンテーリングをやっているかのように見えます。会場にいた観客と大会関係者はまさに釘付けでした。パソコンを通して世界各国で中継を見ていた人々もスキーオリエンテーリングの新たな魅力を体感したことと思います。

<今後の展望>

選手として

今回の自己ベストはロング種目での 35 位でした。この結果は決して満足のいくものではありません。日本代表としての自覚を持ちこれからも世界へ挑戦を続けていきたいです。個人戦では日本人最高の 10 位台、リレーでは 6 位入賞を目標として取り組んでいきます。新たに代表チームに加わったジュニアとも絆を深めチーム全体のレベルアップを図りたいです。

国際的な動き

今回の世界選手権ではアジアからの参加はカザフスタン、キルギス、日本のみでした。しかし、2月にカザフスタンで行われたアジア冬季競技大会には中国、韓国、モンゴルもスキーオリエンテーリング競技へ出場し、メダルを獲得しました。クロスカントリースキー経験の豊富な選手が多く、今後は日本のライバルとしてあなどれない存在だと言えます。

スキーオリエンテーリングは、札幌で開催される 2017 年のアジア冬季競技大会と 2022 年の冬季オリンピック種目への採用が有力視されています。これからもスキーオリエンテーリングの発展のため皆様のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

アークコミュニケーションズ
堀江守弘

高橋美和（長野県オリエンテーリング協会）

まずは、この度の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興を心より祈念いたします。

早いもので、世界選手権への出場は4回目となりました。何も分らず連れて行ってもらったフィンランド。何かとストレスの多かったロシア。地元開催のルソツ。そして今回は出産を経ての参加となりました。産後半年の旭岳合宿で久しぶりにスキーを履いたものの、あまりの筋力のなさバラバラな手足の動きに愕然としてしまいました。この状態で4ヵ月後の世界選手権へ出場するのは無謀とも思いましたが、その時点で女子選手がおらず、一度途切れてしまうと次に繋ぐのは大変なことで一番時間のある自分が行くしかない、と勝手に使命感を持って出場を目指すことにしました。そもそも、週に何度かタクシー帰りの生活だった前回に比べ、育児休暇中で3食自炊・睡眠たっぷりの今回のほうが体調そのものが悪かろうはずがありません。平日は娘を背負ってポールウォークを1時間ほど行いました。途中からは地図を持ち、右右左右…と住宅地の路地をうろうろしていました。週末は家族の協力があり、以前と変わらず毎週雪山へ行くことができました。おかげで、以前とそう変わらぬ程度に回復し本番を迎えることができました。

結果的に5名もの女子選手が出場することとなりましたが、幸運にも私は全種目に出場することができました。日本ではスキーオリエンテーリングのレースをする機会がほとんどないため、5レースもできたことはとても幸せでした。全体的には、例年より地図読み練習をたくさんしていたため、現地への対応もスムーズにできており周囲の選手と競い合うこともできました。特に天候のひどかったミドルで、トラックが消えて分からなくなったときでも大崩れしなかったのも、事前に地図読みをたくさんしていたおかげだと思います。ただ、今の私の体力では体が持たなかったようで、後半のロングとリレーは登りで置いていかれることが多くなってしまったのが残念です。

今回は4名の高校生と一緒に参加となりました。同じく高齢化の進んでいたアメリカチームも若いメンバーが参加し、ロングで8位に食い込む活躍を見せています。日本もまだまだこれからが楽しみです。いえ、楽しみだと思われるチームを私達が作っていかなくてはいけないと思っています。

最後になりましたが、今回の大会出場にあたりたくさんの方からご支援・ご声援いただきありがとうございました。

高橋美和

黒田幹朗（横浜オリエンテーリングクラブ）

報告に先立って、このたびの東日本大震災により被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈りいたします。また、このような状況の中、多大なるご支援を下さった皆様に心よりお礼を申し上げます。

<大会前の意気込み>

今シーズンは、目標にしていた冬季アジア大会への参加の望みが絶たれ、モチベーションを維持するのが難しい状況の中でのスタートとなった。その中で気持ちを切り替えるきっかけとなったのは、高橋直博氏、畔上大地氏という2人の日本を代表するスキヤーの指導である。お二人の指導により、トレーニング方法やスキー技術に大幅な改善の余地を見いだせたことで、大会の規模や肩書きではなく、純粋な競技力の向上という目標に意識が向くようになった。結果として、（震災の影響を除けば）今までになく質的に充実したトレーニングをして臨むことができたと思う。

<今大会で最も印象に残ったシーン>

一つ挙げるとするなら、初日のスプリントの中盤に堀江を含めた4選手で競り合いとなったシーンだ。追い抜くチャンスを伺いつつ先行する選手について行く…。チャンスを逃さず先頭に躍り出る！集中力を切らすと抜かされる緊張感！世界選手権は今回が2度目であるが、前回出場時は他の選手について行くこともできず、淡々と自分のペースで滑るだけで、全く世界と戦った実感の湧かないレースだった。今回は初めて世界と闘い、そしてその醍醐味を感じることができた大会だったと思う。それを象徴するのがこのシーンだった。

<今後の展望>

前述の通り良い勝負ができた場面もあったが、競り合うことができたのは中堅国に一步及ばない国々である。また、自分が目標としていた30位台にも届かなかった。個人としても、チームとしてももう一つ抜け出したい所である。個人的な課題としてあげられるのは、やはりスキーテクニックである。まずはオフシーズンのトレーニングメニューを、スキーを意識したメニューにシフトさせること、そして冬季にクロカンのレース経験を積むことでこれを克服していきたい。

また、今回は4人の高校生が初の日本代表として参加した。今後、日本のスキーオリエンテーリングの普及活動はますます活発になり、彼らのような若手選手が増えてくるだろう。その時、世界と戦うために必要な心構え・スキル・ノウハウを伝えるのが我々の世代の役目である。そのために今、我々が成し遂げなければいけないことはまだまだ多い。世代交代の声も聞こえてきてはいるが、もうしばらく、中心選手の一人としてこの競技に真剣に向き合っていきたいと思う。

酒井佳子（北海道旭川市）

<大会前の意気込み>

この1年、競技以外の面で大きな変化があった選手が何人かいたが、私もその1人で、正直なところ、世界選手権大会のことは頭に無かった。しかし、11月の初すべり合宿で、98年以降続いている女子選手出場の実績を途切れさせるものかと意気込む高橋美和さん、選手時代以上に（?!）チームに貢献しようとする山田敦史さん、その他、名前を挙げたらきりがないが、仲間たちの熱意に接し、合宿が終わる頃には参加をしたいという思いに変わっていた。また、高校生4名がチームに加わると知り、目の前の世界選手権大会だけでなく、これからの日本のスキー界に対してもとても楽しみに感じた。

過去の世界選手権前と比べるとトレーニング量は大幅に減っていたが、幸い、地域の人たちと駅伝大会に出場したり、朝練（しかもインターバル走!）をしたりしていたので、心肺機能について不安はなかった。したがって、初すべり合宿以降は、スキーの滑り込みと筋トレ（主に腹筋と腕立て伏せ）、地図読みが主なトレーニングメニューだった。

<今大会で最も印象に残ったシーン>

自分のレースについては、スプリント、ミドルとも30位台と残念な成績であったし、レース中のポール破損も、ポールに補強を施していなかったことが悔やまれた（一度レース中に破損したことのあるマップホルダーには補強を施していたのだけど…）。

最も印象に残ったのは、今回初めて実施されたスプリントリレーである。出場した高橋、堀江両選手は、かなり緊張する状況だっただろうに、果敢にレースを進めていたのが印象に残ったし、間違いなく優勝すると思われたフィンランドが、ラスト1周で力尽きてロシアとスウェーデンに敗れたシーンも印象に残ったというか、この競技の難しさを実感した。競技以外では、複数の国の選手や監督が、東日本大震災に触れ、あなたの家族や友人は無事なのか、とか、募金をしたいがどうすればよいか、などと声をかけてきたことが心に残った。

<今後の展望>

今回ほど、今後の展望が明るい世界選手権大会はなかったかもしれない。若く才能ある仲間たちが新たに加わったこと、日本初の開催で注目された前回の世界選手権大会のときと変わらず多くの方からご支援をいただいたこと、このような状況から、私は、日本チームが近い将来、過去最高の結果を出すことになるだろうと確信している。

日本チームが上位を目指すには、開催国で前年に開かれるワールドカップ（世界選手権大会の予行演習的意味合いもある）に出場したり、世界選手権大会の数日前から現地入りして練習をしたり、更にはワールドカップを転戦してランキングポイントを持つ選手を出すなどが必要となると思う。また、現地で選手が競技に集中できる状況を作るため、現地でのサポート体制を充実させたい。そのためにも、私を含め、過去に世界選手権大会に出場した人たちが、今後、オフィシャルとして関わる状況を作りたいと考えている。また、今後とも皆さまからのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



渡辺幸（山形県立米沢東高校）

大会前は大震災の影響で東日本全体は大きなダメージを負った。僕たちが大会に出発する1週間前のことです。学校も自宅待機の状態になり様々な行儀も中止になっていく中で僕たちはスキーオリエンテーリングをしていいのかと思いましたがこんなときだからこそ一人一人がやれることをやろうと思いました。

今回の大会は僕にとって初めての世界選手権であり2回目の世界と戦う大会でした。

1回目は2011年2月1～6日に行われたヨーロッパ選手権です。この時は同年代に負けて悔しかったですが、世界の地図というものを体験できました。そして今回のレースでは地図読みという点では前回の経験もありだいぶがんばれていたと思います。しかし今回の全レースで体力の少なさを自覚しました。全てのレースで登りに苦戦してそこで抜かれることも多かったです。特にロングではまだ経験したことのない距離を走り後半の方はバテバテでした。

今大会で一番印象深かったのは閉会式の日、東日本大震災の募金に協力してくれた事についてお礼を言いました。その時そこにいた全員の人が立ち上がり拍手をしてくれました。それを見てみんな日本を思ってくれているのだと思いとても感動しました。

一番悔しかったことがあります。それは最終日のリレーでの0.8秒差です。リレーはマススタートで行われました。第一走者の堀江さんが帰ってきたとき僕は堀江さんからトレインの情報とアドバイスをもらいました。そのアドバイスというのがラスポからゴールまでは抜くのが難しいからその前まで抜いておけということでした。第二走者の黒田さんも帰ってきて僕がスタートします。レースを全体的に見ると普通に帰ってきましたがラスポ前でイタリアの選手に再度抜かれてそのまま抜かし返せませんでした。さらに相手は女性だったのでとても悔しかったです。

これからはまず僕もスキーオリエンティアの拡大に協力したいと思います。今年一年は受験であまり活動はできませんが、大学に入ったらまず参加者を広めていきたいです。

白鳥桂子（北海道札幌市）

昨シーズンはS A J クロスカントリースキー指導員の資格取得に向けてスキーの練習を続け、指導員を取得した。今シーズンは春から秋にかけて北海道で開催されるパークオリエンテーリング大会、北大生や北海道オリエンテーリング協会の宮川さんが主催する練習会にも参加した。時間があればトレーニングは続けていたが、仕事、育児、スキーと3つのことを同時にこなすのは大変であり、世界選手権を目指すかどうかは悩んでいた。心の奥底には、また世界選手権という大きな舞台に立ちたいという気持ちがあり、思いきって家族に相談したら協力してくれるということになった。年末年始は実家には帰らずほとんど毎日スキーをした。そして年明けには母が東京から3週間手伝いに来てくれた。高校生が今回の世界選手権に参戦するという話は聞いており、日本代表を目指すなら覚悟が必要だった。母が来てくれたおかげでトレーニング時間を確保することができ、ルソツの代表選考会では無事代表に選ばれた。今回の世界選手権に向けて設定した目標は「挑戦する気持ちを大切にし、スキーオリエンテーリングを楽しむ。集中してトレーニングに取り組む。」である。与えられたトレーニング時間は限られているけれども、日常生活の中でもトレーニングはできるし、酒井さん、北大生、北海道ライフスポーツ推進協会の仲間との練習会や、家族と一緒にスキーすることを通じてたくさんの刺激を受け、本当に楽しかった。

今大会で一番印象に残ったのは、ミドルディスタンスでGPSをつけて走ったことだ。後から何回も私が通ったGPSの跡を見ていると、巡航速度が遅い、特に分岐などで立ち止まる回数が多い、ほとんど道を辿っておりショートカットがあまりできないということが分かった。夫の分析によると、私は忠実に道を辿っているがトップ選手は誰かがショートカットをすると同じショートカットを使っている、とのことであり、実力通りの結果となった。ロング、リレーともに大きなミスはなく、レースそのものは楽しめたがやはりトップとの差は大きいと感じた。リレーに出場できたことは嬉しかった。しかし結果は12位と完走したチームの中では最下位という厳しい結果に終わった。もっともっと上を目指すのであれば、計画的にトレーニングを行うことが必要である。これから伸び盛りの高校生の活躍に期待したい。

最後になりましたが、日本の皆様から多くのご支援をいただき、ありがとうございました。また、海外の選手から東日本大震災への募金や励ましの言葉をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。東日本大震災の影響により、予定していたルフトハンザの飛行機が成田発から大阪発となったため娘を実家の東京に預けることができず、札幌で留守番をしてくれた夫と娘、1月の厳寒期に手伝いに来てくれた母に感謝しております。多くの人に支えられて世界選手権に参加し、心からスキーオリエンテーリングを楽しむことができて光栄でした。今後は北の大地で若い選手を育てていきたい。

高橋謙也（山形県立米沢興譲館高校）

僕は今年、スウェーデンで開催される世界選手権に出場できるとは思っていませんでした。スキーオリエンテーリングは中学 1 年生のときに 2 回だけ競技に出場したことがあり、それ以降は競技からは遠ざかっていました。しかし、昨年の 11 月にスキーオリエンテーリング主催で行われた旭岳初滑り合宿に参加したとき、武石さんに、「今回の世界選手権を狙っている人は少ないからチャンスだ。」と言われ、日本代表として海外でレースをできるなんてこんなチャンスは滅多にないと思い、留寿都で行われる国内予選に出場することになりました。その予選会では、思っていたよりも成績がよく、世界選手権の出場権を獲得することができました。日本国内の競技人口も少ないということもあり世界選手権に出場できるということもありますが、出場するからには世界選手権までできる限りのことをしようと思い、空き時間に過去の大会の地図を見てイメージトレーニングをしていました。

そんな中、日本を震災が襲い世界選手権への参加が危ぶまれましたが、急遽、交通機関の変更などにより何とか会場であるスウェーデンにたどり着くことができました。大会初日のスプリントは、海外でのレースでいつもと変わった雰囲気のためなのか、焦ってしまい思うような力が出せませんでした。ミドル、ロングとレースを重ねるごとに成績がよくなっていき、オリエンテーリングが面白いと感じました。大会期間中、ミックスリレーとリレーは応援でしたが、トップの選手の滑りは上手でパワーもあり、地図の見方やタイミングなどを生で見ることができて、とても参考になりました。もちろん日本選手が力を十分に出せるように応援、サポートを頑張りました。レース後のバンケットは、各国の選手が仲良く会話やダンスをしていて、楽しい雰囲気を味わってきました。

今回の世界選手権ではたくさんの経験ができたと思います。スウェーデンの料理は当然、日本にないものや口に合わない食べ物もあり、それを探りながら楽しく食事をしてきました。日本から大会会場までの往復は僕を含めた高校生 4 人と武石さんの 5 人での行動でしたが、英語を完璧に話せる人はいなかったのも、海外の人に話しかけるのが大変勇気のいることでした。しかしながら、会話をしていくうちに慣れてきて、帰国の時には、下手な英語ながらもわからないことは自分から聞くことができるようになりました。今年度は、蔵王で行われるスキーのインターハイに集中し、また機会があればスキーオリエンテーリングの大会に参加したいと思います。もし、もう一度世界選手権に出るときは経験ではなく、少しでもいい結果を残せるように頑張っていきたいと思います。

島貫なつみ（九里学園高校）

私は、今回初めて世界選手権に出場し、ロング、ミドル、スプリントの3種目に出場しました。大会前は、30位台を目標にしていました。

1つ目のスプリントは、トップスタートでした。とても緊張しました。最初の1ポストまで行くのに、最初の分岐で逆方向に行ってしまう迷いました。晴れていたのに、コース以外の所はやわらかく、ストックがズボズボぬかっただけで、順位は、46位でした。2つ目のミドルは、吹雪でした。コースが吹雪と風で消えていて、まったく見えない状態でした。中盤で迷いました。順位は、45位でした。3つ目のロングは、一斉スタートでした。私にとって、SKI-Oでの一斉スタートは初めてでした。スタートはとても緊張しました。トップの選手と一緒に走って、やっぱり速いと思いました。1週目は途中迷いながらも、順調に行けましたが、2週目がバテてしまいました。2週目の森で給水を取ろうと考えていましたが、行ったらもう給水がないと言われて取れませんでした。2週目に入るときにとればよかったなと思いました。順位は、45位でした。

今回3種目に出場して、失格になることなくすべてでゴールすることができてよかったです。3種目共にたくさん迷ってしまい、海外のコースは細かくて難しいと感じました。ポストも海外の選手は背が高いので、高い位置にありがばって手を伸ばしました。また、海外のトップ選手とのレベルの差も感じることもできました。もっと体力をつけて、地図読みをもっと出来るようになりたいと思いました。地図を見る回数も減らしていきたいです。他に、英語の必要性をとても感じました。もっと話すことができれば、たくさんの選手ともっと交流ができたのではないかと思います。これから英語の勉強も、がんばっていききたいと思いました。

今回の大会参加には、出発前の大地震で交通網がマヒしてしまい、行くことが出来るか心配でしたが、参加することが出来て良かったです。また、大会期間中にたくさんの選手から募金をいただき、日本のことを思ってくれていることがうれしかったです。日本選手全員でお礼を言ったときには、いすなどに座っていたほかの国の選手やコーチ、大会関係者が、立って拍手をしてくれて私には応援してくれているのだと感じ、感動しました。ここまで来てよかったなと思いました。

大会には、お米や味噌なども日本でいただき持って行くことが出来、期間中に日本食を食べることが出来ました。また今回の大会参加のために、たくさんの方が関わっていただき、支援していただきありがとうございました。充実した大会になりました。

渡邊志保（山形県立米沢興譲館高校）

自分が世界大会という大舞台を経験できるなんて思いもしなかったのでどんな人に出会えるか、どんなおもしろいことが待っているのか気になって仕方がなかった。しかし、地図読みは得意ではないし、よく自分がどこにいるか分からなくなるが多々あったので出場しても果たして完走できるのだろうか？という不安もあった。そんな不安に負けずに、日本であったスキーオリエンテーリングで学んだこと、先輩方に教えていただいたことを活かして滑ろうと思った。

世界各国から集まった選手を見て、地図を読むのが速いのはもちろん滑りにくい道でも上手なテクニックで速く滑ることができていてすごかった。ロングはマススタートのレースであったわけだがみんなすぐにいなくなってしまうと世界の壁の厚さを改めて感じた。

スキーオリエンテーリングの選手は、みんなライバルであるはずなのに出身国を問わず仲良しでフレンドリーだと思った。大会では集中、バンケットでは楽しむとしっかりけじめをつけられることが尊敬すべきところだと思う。英語を話せない私にもやさしく接してくれたおかげで緊張が和らいだ。

他の国の人々は、私が考えていた以上に日本を心配してくれているということがなによりうれしかった。募金を下さったり、応援の言葉をかけて下さったり、本当にありがたいと思う。

Can you speak English? と聞かれて No! としか答えられなかった自分がとても情けなく感じた。私は、外国の人とも交流したいと強く思った。また外国に行ける機会があるなら今より英語を聞き取れて、話せるようになって行きたい。

私は、レース中に地図の道を見るのが精一杯で等高線や開けたところを見る余裕がない。そのため、リレーで使用した吹きさらしで道が消えているところでどこに行けばいいのか分からなくなってしまった。夏に foot の大会に出場して道を頼りにしなくとも自分のいる位置を等高線や開けたところなどの地形を頼りにして分かるようになりたい。

スキーオリエンテーリングは個々人の個性がレースにそのまま表れるスポーツであると思う。自分が気がつかなかったルートを他の人に教えてもらったとき、こんなにも奥が深くておもしろいスポーツはスキーオリエンテーリングしかないと思う瞬間である。

公式記録

Sprint Distance - Men

1	TAIVAINEN Olli-Markus	FIN	18:04
2	TUNIS Staffan	FIN	18:07
3	ARNESSON Peter	SWE	18:27
4	KVÅLE Hans Jörgen	NOR	18:45
5	KESKINARKAUS Matti	FIN	18:51
6	ROST Erik	SWE	19:01
<hr/>			
44	堀江 守弘	JPN	24:02
53	黒田 幹朗	JPN	26:24
62	渡辺 幸	JPN	33:00
76	高橋 謙也	JPN	1:02:55

Sprint Distance - Women

1	ALEXANDERSSON Tove	SWE	15:11
2	SÖDERLUND Helene	SWE	15:14
3	ANTTILA Liisa	FIN	15:24
4	KOZLOVA Tatyana	RUS	15:26
5	KVÅLE Barbro	NOR	15:39
6	KIRKEVIK Stine Olsen	NOR	15:44
<hr/>			
30	酒井 佳子	JPN	20:41
37	高橋 美和	JPN	23:34
43	渡邊 志保	JPN	29:25
46	島貫 なつみ	JPN	33:21

Middle Distance - Men

1	TUNIS Staffan	FIN	40:13
2	LAMOV Andrei	RUS	40:35
3	ARNESSON Peter	SWE	41:42
4	VESELOV Kirill	RUS	41:53
5	ROST Erik	SWE	42:36
6	GRANATH Johan	SWE	42:38
<hr/>			
45	堀江 守弘	JPN	55:46
64	黒田 幹朗	JPN	1:06:42
65	渡辺 幸	JPN	1:07:27
70	高橋 謙也	JPN	1:15:33

Middle Distance - Women

1	MALCHIKOVA Polina	RUS	39:52
2	TRAPEZNIKOVA Alena	RUS	40:27
3	KIRKEVIK Stine Olsen	NOR	40:28
4	ENGSTRÖM Josefine	SWE	42:00
5	REENAAS Marte	NOR	42:18
6	TONNA Hannele	FIN	42:44
<hr/>			
31	高橋 美和	JPN	1:01:39
33	酒井 佳子	JPN	1:02:07
39	白鳥 桂子	JPN	1:14:09
45	島貫 なつみ	JPN	1:32:35

Mix Sprint Relay

1	Russia	1:05:19.0					
	GRIGORYEV Andrey	11:41.1	3	33:48.2	2	0:55:45	3
	MALCHIKOVA Polina	22:14.7	2	44:32.2	3	1:05:19	1
2	Sweden	1:05:59.4					
	ARNESSON Peter	11:40.6	2	34:10.6	4	0:56:00	4
	SÖDERLUND Helene	23:00.2	4	44:42.7	4	1:05:59	3
3	Finland	1:06:04.5					
	KESKINARKAUS Matti	11:40.0	1	33:19.6	1	0:55:09	1
	ANTTILA Liisa	21:55.5	1	43:42.7	1	1:06:05	4
4	Norway	1:06:23.9					
	KVÅLE Hans Jörgen	11:41.5	4	34:01.2	3	0:55:15	2
	KIRKEVIK Stine Olsen	22:32.3	3	43:43.9	2	1:06:24	5
5	Czech Republic	1:08:37.7					
	VODRAZKA Ondrej	11:45.7	5	35:24.7	6	0:57:49	5
	HANCIKOVA Hana	23:28.1	5	46:24.8	5	1:08:38	6
6	Kazakhstan	1:09:20.3					
	SOROKIN Mikhail	12:29.5	8	35:39.5	7	0:58:25	6
	NOVIKOVA Olga	23:51.3	7	46:52.4	6	1:09:20	7
<hr/>							
16	Japan	1:26:31.2					
	堀江 守弘	12:49.4	15	41:13.9	16	1:10:11	16
	高橋 美和	27:51.0	17	57:44.1	17	1:26:31	17

Long Distance - Men

1	GRIGORYEV Andrey	RUS	1:42:43.9
2	TUNIS Staffan	FIN	1:42:46.2
3	BARCHUKOV Vladimir	RUS	1:43:21.1
4	ROST Erik	SWE	1:44:32.8
5	ARNESSON Peter	SWE	1:45:02.7
6	VODRAZKA Ondrej	CZE	1:45:44.4
<hr/>			
35	堀江 守弘	JPN	2:07:52.4
49	黒田 幹朗	JPN	2:24:17.4
51	高橋 謙也	JPN	2:26:07.7
67	渡辺 幸	JPN	DSQ

Long Distance - Women

1	SÖDERLUND Helene	SWE	1:20:52.7
2	KOZLOVA Tatyana	RUS	1:22:28.2
3	REENAAS Marte	NOR	1:23:01.7
4	HANCIKOVA Hana	CZE	1:24:17.8
5	MALCHIKOVA Polina	RUS	1:24:51.3
6	ANTTILA Liisa	FIN	1:25:10.2
<hr/>			
35	高橋 美和	JPN	2:03:23.7
39	渡邊 志保	JPN	2:10:08.9
41	白鳥 桂子	JPN	2:16:21.4
43	島貫 なつみ	JPN	2:38:17.3

Relay - Men

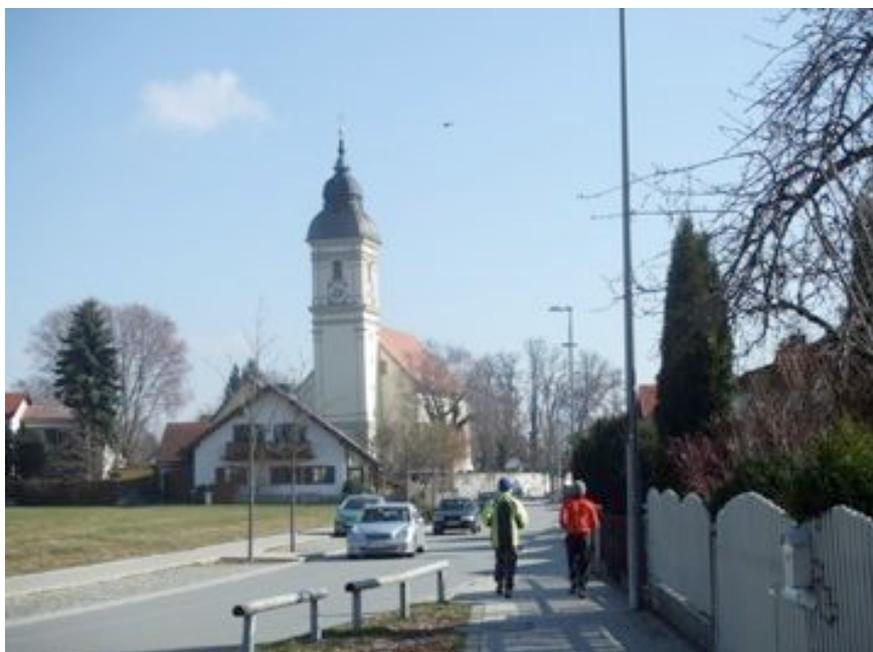
1	Finland		1:32:29	1
	TAIVAINEN Olli-Markus	30:43.8	0:30:44	1
	KESKINARKAUS Matti	31:13.6	1:01:57	1
	TUNIS Staffan	30:31.7	1:32:29	1
2	Sweden		1:33:28	2
	GRANATH Johan	32:32.1	0:32:32	5
	ROST Erik	30:11.9	1:02:44	2
	ARNESSON Peter	30:43.5	1:33:27	2
3	Norway		1:33:51	3
	TONNA Eivind	32:11.5	0:32:12	2
	KVÅLE Hans Jörgen	31:39.4	1:03:51	3
	MOHOLDT Lars Hol	30:00.3	1:33:51	3
4	Russia		1:33:58	4
	BARCHUKOV Vladimir	32:13.7	0:32:14	3
	GRIGORYEV Andrey	31:41.9	1:03:56	4
	LAMOV Andrei	30:02.8	1:33:58	4
5	Switzerland		1:39:54	5
	KAPPENBERGER Andrin	34:09.9	0:34:10	6
	HOHL Christian	32:15.0	1:06:25	5
	SCHNYDER Gion	33:28.6	1:39:54	5
6	Czech Republic		1:40:16	6
	BOUCHAL Jiri	32:31.7	0:32:32	4
	SKODA Jakub	35:33.5	1:08:05	6
	VODRAZKA Ondrej	32:10.6	1:40:16	6
14	Japan		2:03:29	14
	堀江 守弘	37:44.0	0:37:44	12
	黒田 幹朗	44:15.8	1:22:00	16
	渡辺 幸	41:28.9	2:03:29	14

Relay - Women

1	Russia		1:23:45	1
	TRAPEZNIKOVA Alena	0:27:07	0:27:07	1
	KOZLOVA Tatyana	0:27:56	0:55:03	1
	MALCHIKOVA Polina	0:28:42	1:23:45	1
2	Norway		1:24:16	2
	KVÅLE Barbro	0:27:39	0:27:39	2
	KIRKEVIK Stine Olsen	0:28:26	0:56:05	2
	REENAAS Marte	0:28:11	1:24:16	2
3	Finland		1:27:05	3
	TURUNEN Marjut	0:29:52	0:29:52	3
	ANTTILA Liisa	0:29:05	0:58:57	3
	TONNA Hannele	0:28:08	1:27:05	3
4	Sweden		1:27:47	4
	RICHARDSSON Kajsa	0:31:55	0:31:55	8
	ENGSTRÖM Josefine	0:28:01	0:59:56	4
	SÖDERLUND Helene	0:27:51	1:27:47	4
5	Czech Republic		1:35:22	5
	RANDAKOVA Helena	0:29:56	0:29:56	4
	KAROCHOVA Simona	0:33:54	1:03:50	7
	HANCIKOVA Hana	0:31:33	1:35:22	5
6	Switzerland		1:35:47	6
	STRUB Carmen	0:30:14	0:30:14	5
	LECHNER Ladina	0:32:12	1:02:26	6
	GANTENBEIN Yvonne	0:33:21	1:35:47	6
12	Japan		2:13:01	12
	高橋 美和	39:03.6	0:39:04	14
	白鳥 桂子	45:47.8	1:24:51	13
	渡邊 志保	48:09.0	2:13:00	12

大会風景

3月19日・20日 移動日



世界選手権開催地のテンダーレン（スウェーデン）までは2日間かけての移動となった。上は経由地のミュンヘン近郊でランニングする堀江守弘と高橋美和。震災の影響で大幅な旅程の変更が発生したが、全員が無事に現地入りすることができた。下が日本選手団男子の宿泊したロッジの様子。



3月21日 モデルイベント・開会式



21日は風が強かったものの青空が晴れ渡り、絶好のスキーオリエンテーリング日和となった。



ホテルからの眺め。道路の奥は湿原だが、冬の間は雪に覆われている。



モデルイベントに臨む高橋美和。



日本選手の多くが今回初体験となった、新型のタッチフリーコントロール。フラッグの内側にコントロールユニットが取り付けられている。旧型のものより感度は良いが、場合によってはうまく反応しないこともあった模様。



使用したチップ。コントロールでチェックすると LED が点滅する。故障時のバックアップ用に、選手は2つのチップを装着して競技する。



夕食後に開会式の入場準備。19:00 前だがスウェーデンはまだまだ明るい。各国が会場までトーチを持って行進するという演出。



会場には大型スクリーンが設置されていた。IOF50 周年のビデオが上映される予定だったようだが、機材の不調で中止になってしまった。



3月22日 スプリント



一部の選手には GPS が取り付けられており、会場のスクリーンでは各選手のルートチョイスが一目瞭然。選手よりもスクリーンに釘付けになる観客も多い。

下はゴール前の高橋美和。





渡邊志保



酒井佳子



堀江守弘



堀江はこの時点で暫定トップとなり、会場では大きくクローズアップされた。この写真の晴天からは想像できないが、序盤は猛吹雪に苦しめられた。



レース後の渡辺幸（右）と日本選手団団長の武石雄市（左）。



高橋謙也。世界レベルのコースに翻弄され、持ち前の走力を発揮できなかった。

3月23日 ミドル



スタート前に GPS を装着される白鳥桂子。



スタートを待つ島貫なつみ（左）と渡辺幸（右）



渡辺幸のスタート。



前日の反省を胸にスタートを待つ高橋謙也。



酒井佳子。スタートユニットのトラブルで余裕のないスタートに…。



さらに不運に見舞われる酒井。ポール先端が外れていることを訴える。この後の地図交換エリアで予備のポールに交換してレースを続行したが、不本意な結果に。



地図交換に向かう白鳥桂子（上）とゴール目の黒田幹朗（下）。





酒井佳子



島貫なつみ。吹雪で道が消えるコンディションは
オリエンテーリング経験の浅い彼女には難しかった。



ゴールに向かう高橋謙也（前）と島貫なつみ（後）



高橋美和。難しいコンディションにうまく対応し、酒井を秒差でかわして日本人トップの成績を出した。

3月24日 ミックススプリントリレー



男女2名で3周ずつリレーする新種目、ミックススプリントリレー。
日本チームは高橋美和（上）と堀江守弘（下）のコンビで出走。





スタートの瞬間を待つ堀江。





一斉に飛び出す1走の選手達。黄色のビブを付けているのは撮影スタッフ。トップ選手に引けを取らないスピードで、迫力ある映像を世界に中継した。







トップ集団は大混戦。遅れること1分、2走の高橋にチェンジオーバーする堀江。





チェンジオーバー後、10分～15分程度で次の出走となるが、待っている間にも強風が体温を奪ってしまう。チーム全体でサポートが必要だ。





選手にとっては待っている時間は一瞬。





強風のため地図交換も容易ではない。
高橋も一度地図を飛ばされ、危うく失格になる所だった。





高橋のゴール。初の種目で16位という成績を残した。



3月26日 ロングディスタンス



女子のスタート直後。





スタートを待つ堀江・渡辺・高橋。
ロングディスタンスでは、全選手一斉スタートの形式で行われる。





70名近い選手が一斉にスタートするため大混戦となる。
そんな中、堀江はうまく選手の間をかいくぐって前に出ていく（下）。





日の丸の横を駆け抜けるトップ集団。
遅れをとった選手達は、この先の狭い橋で渋滞に巻き込まれた。





2枚目の地図に交換する高橋と白鳥。





白鳥のゴール。下は男子2位の TUNIS Staffan (Finland)。





完走して安堵の笑みを浮かべる選手達。
渡邊は走力を生かして日本人2位の順位に食い込んだ。



3月27日 リレー



日本は速い順に出走し、上位に食らいついて行く作戦で臨む。
2年前はこの作戦で入賞争いを繰り広げた。





ロングディスタンスの翌日にリレーという日程に、選手も疲労を隠せない。





黒田幹朗。地図を読みつつ前の選手を追走する。





1走：高橋美和（左）から2走：白鳥桂子（右）へのチェンジオーバー。





後半に向かう 2 走：白鳥桂子（上）。3 走の渡邊にアドバイスをする高橋美和（下）。





男子3走：渡辺幸





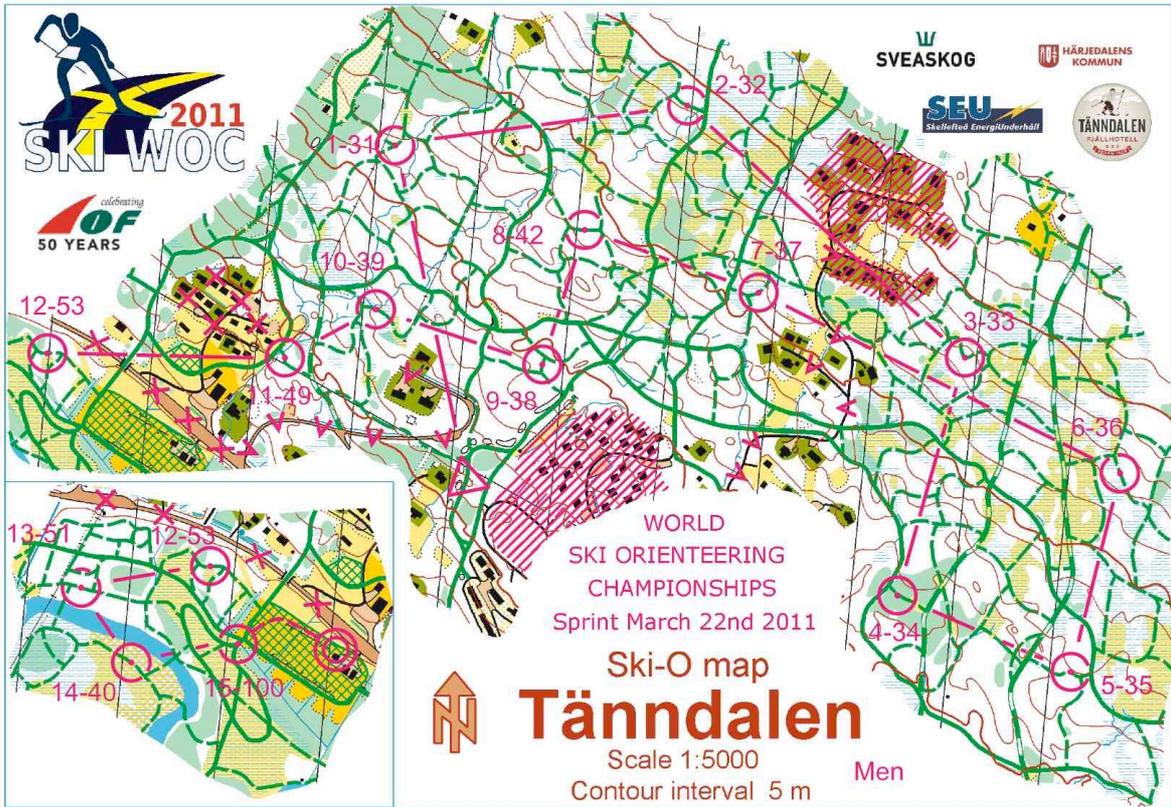
2走：白鳥桂子から3走：渡邊志保へのチェンジオーバー（上）。
ゴール後の男子メンバー（下）。



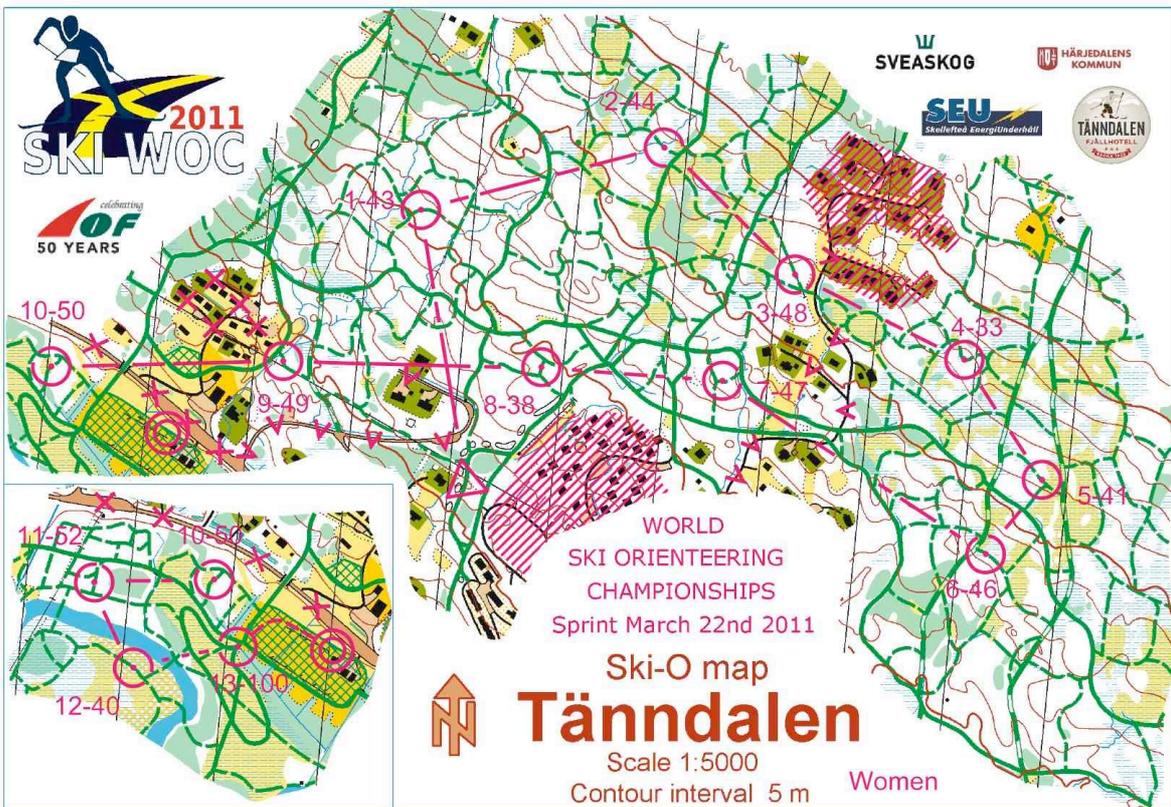


ゴールした渡邊志保を出迎える高橋美和と島貫なつみ。
リレーメンバーに選出されなかった高橋謙也と島貫なつみだが、
前日のワクシングなど、献身的にチームをサポートした。
次回は選手として結果を残してもらいたい。

競技地図



男子スプリント



女子スプリント



男子ミドル1



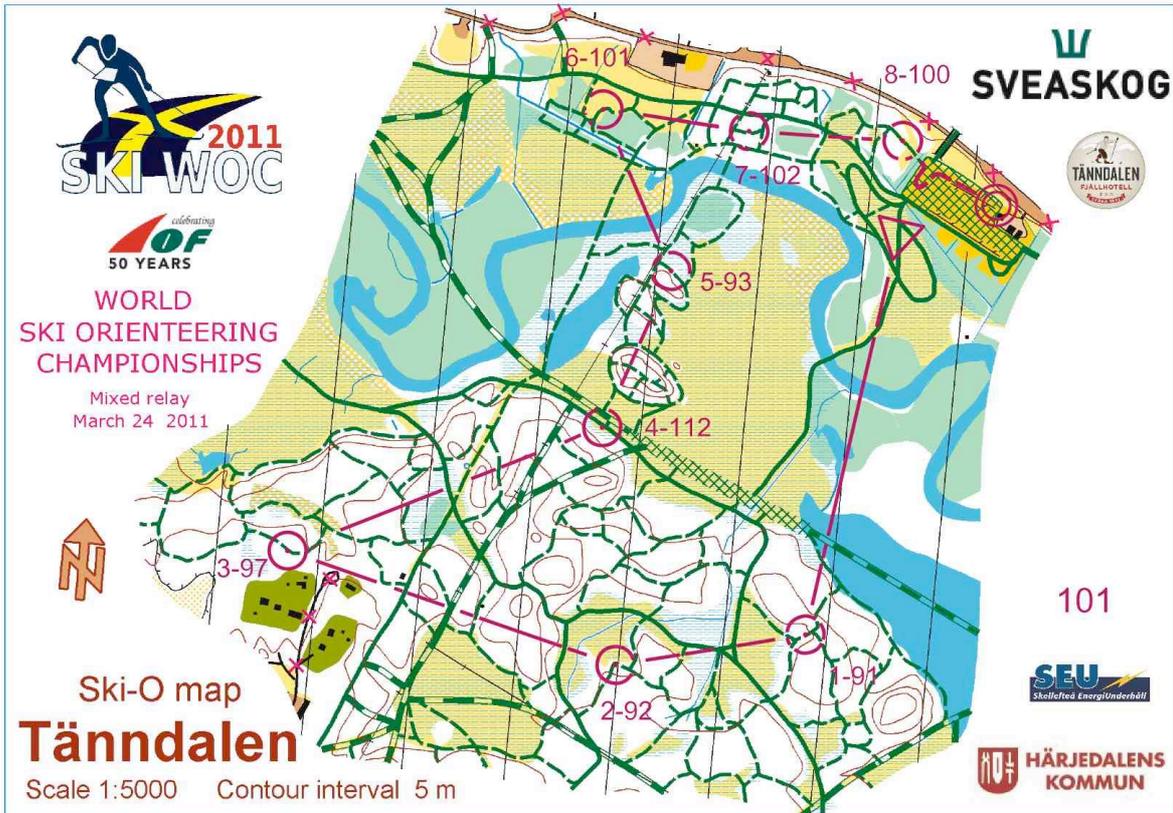
男子ミドル2



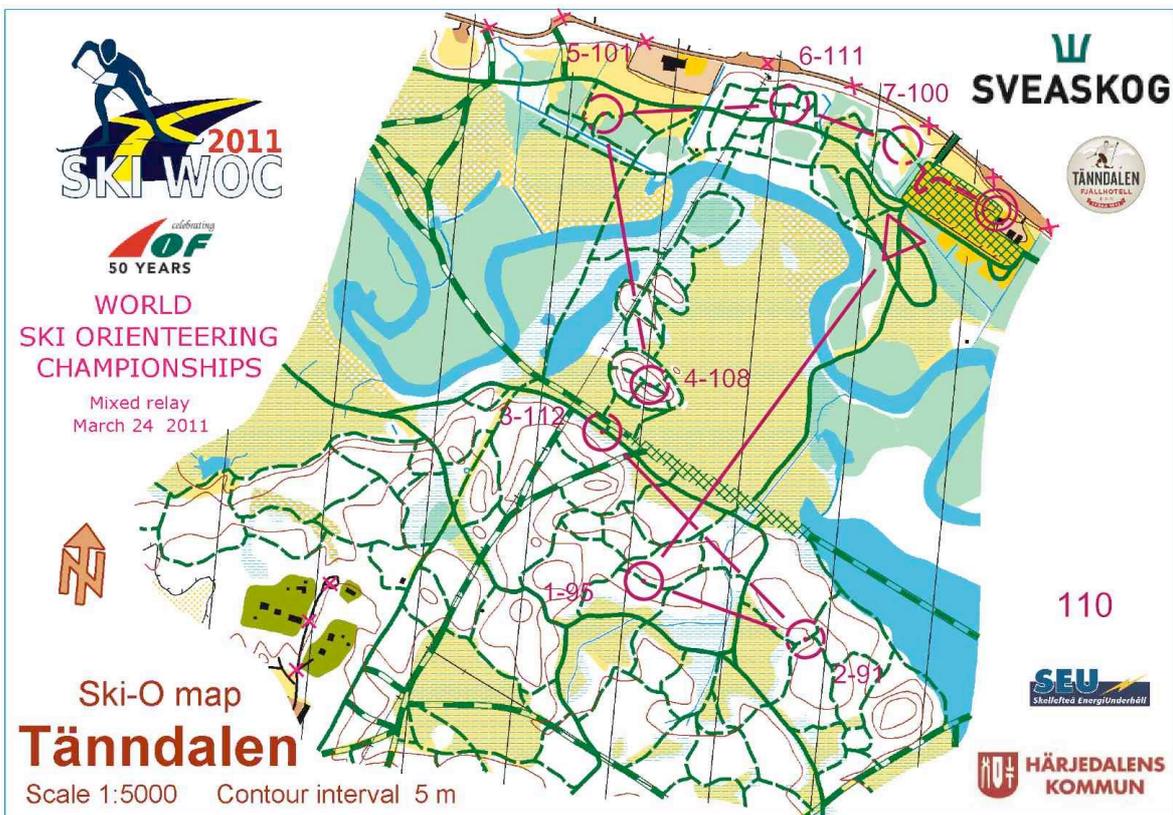
女子ミドル1



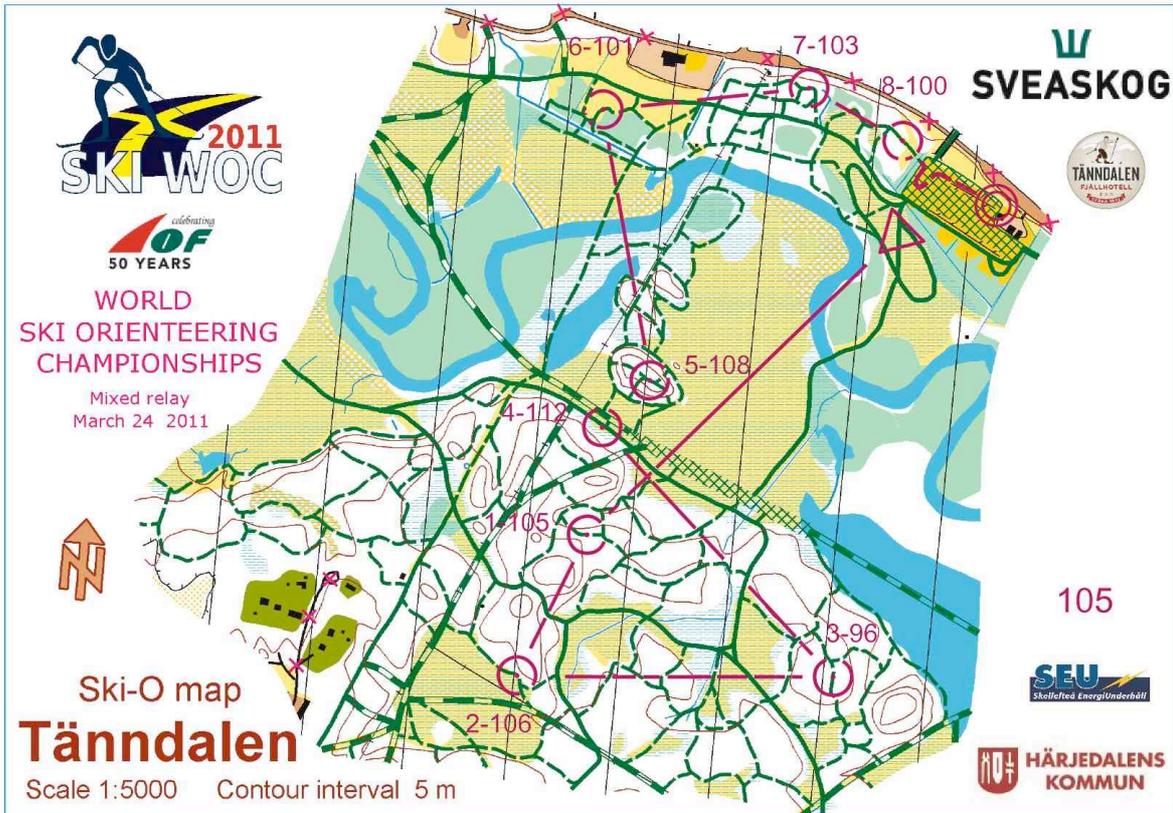
女子ミドル2



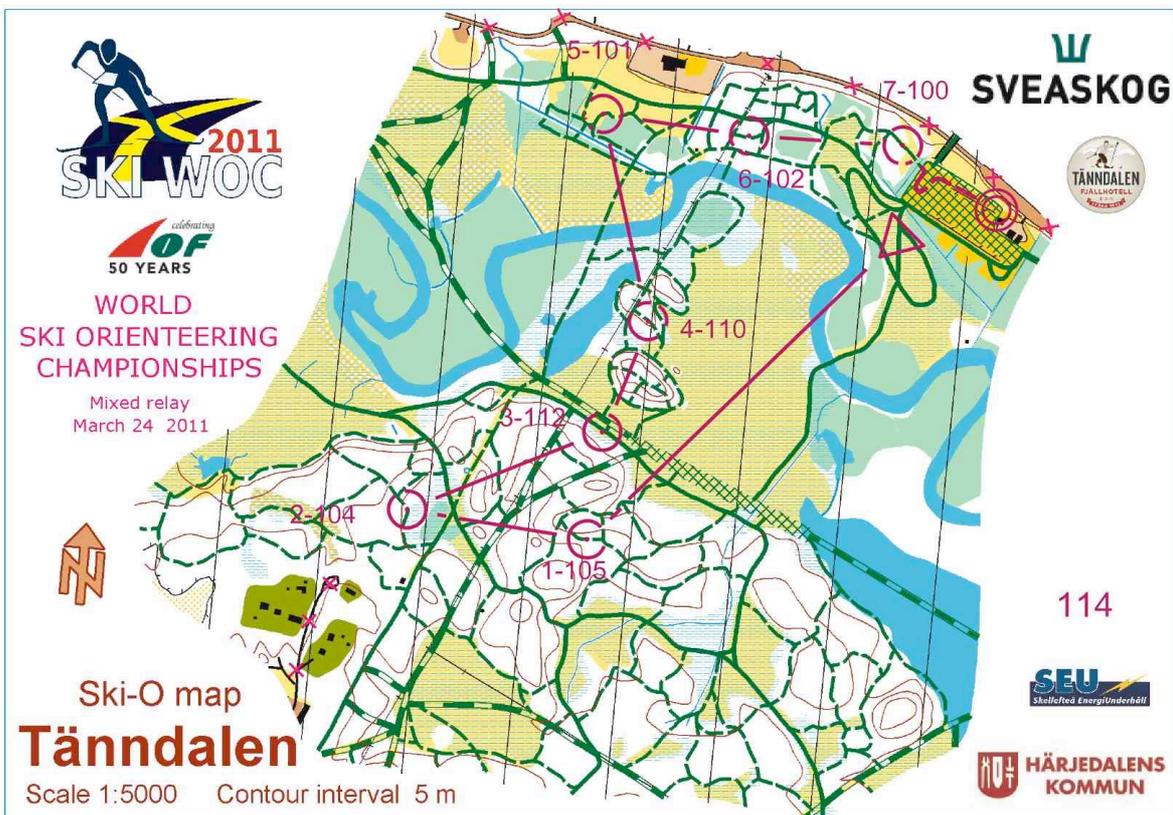
ミックスプリントリレー 1



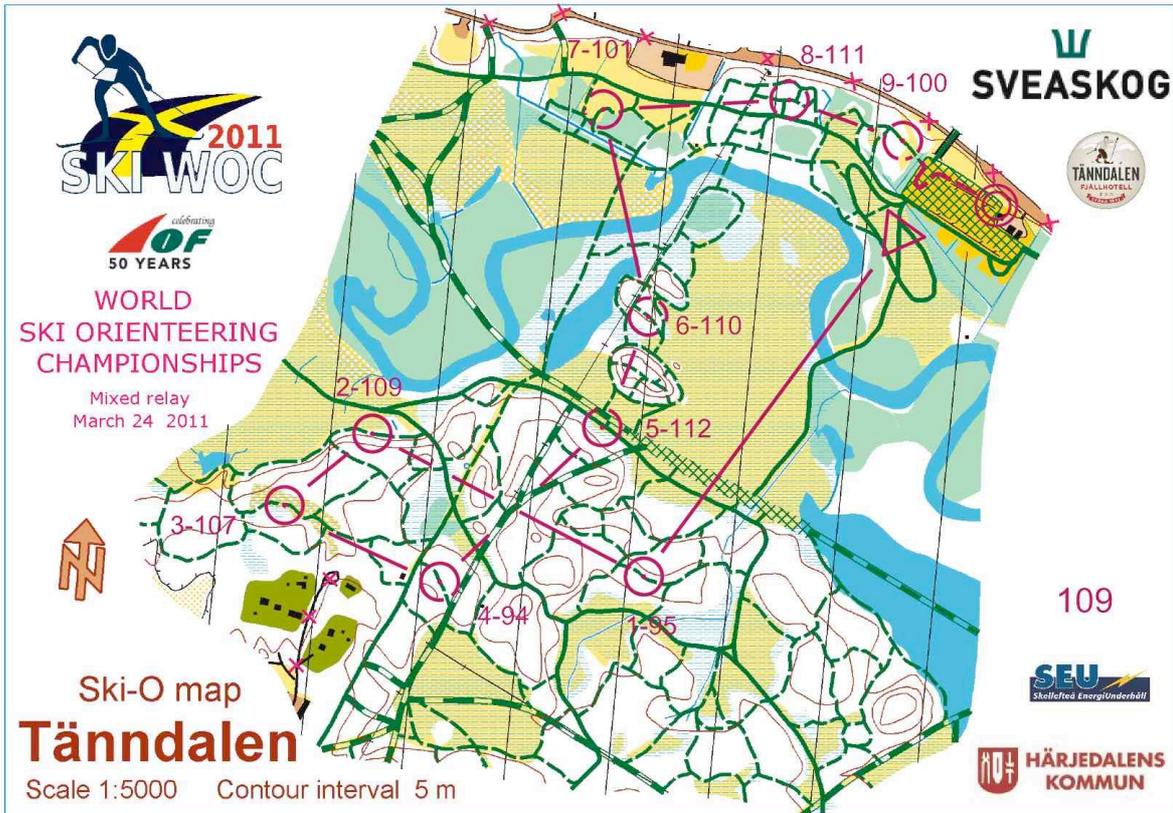
ミックスプリントリレー 2



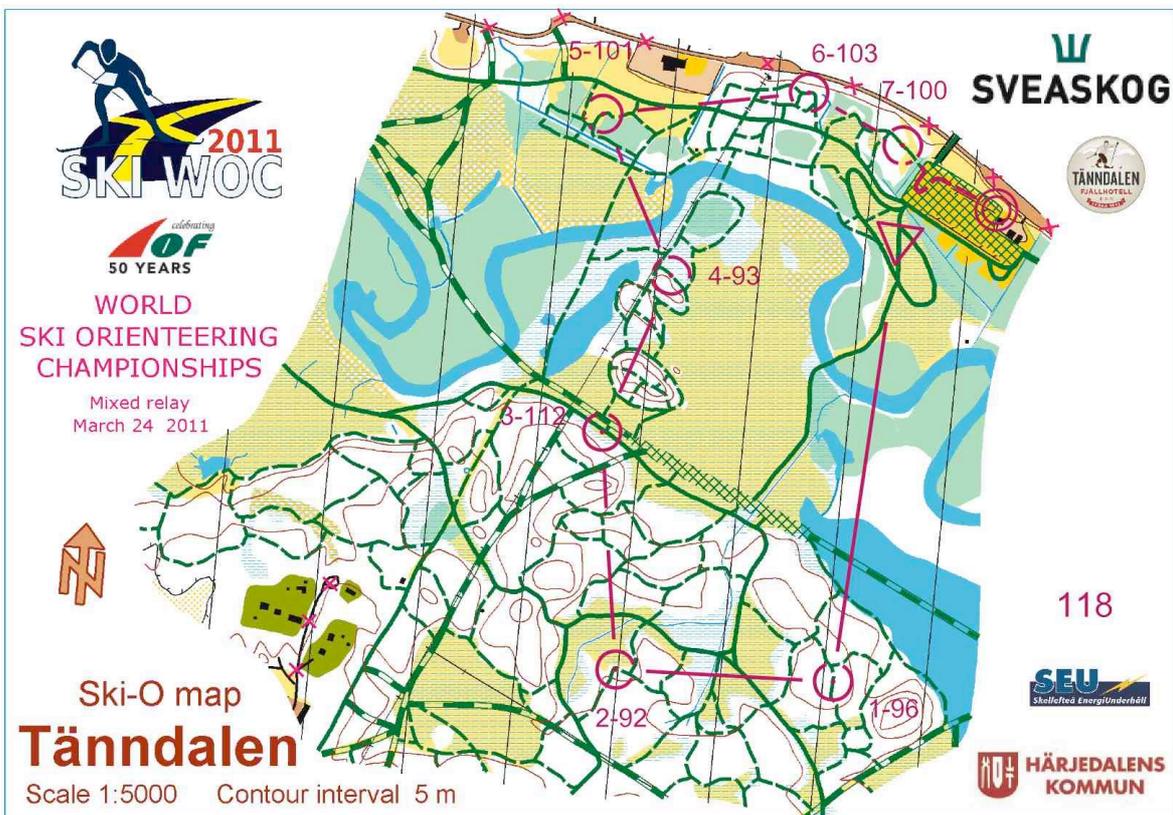
ミックスプリントリレー 3



ミックスプリントリレー 4



ミックスプリントリレー 5



ミックスプリントリレー 6

Ski-O map

Tännaldalen

Scale 1:15 000
Contour interval 5 m

WORLD
SKI ORIENTEERING
CHAMPIONSHIPS

Long distance
March 26 2011

2011
SKI WOC

celebrating
50
YEARS

SEU
Skellefteå EnergiUnderhåll

Bana1

男子ロング 1

Ski-O map

Tännaldalen

Scale 1:15 000
Contour interval 5 m

WORLD
SKI ORIENTEERING
CHAMPIONSHIPS

Long distance
March 26 2011

2011
SKI WOC

celebrating
50
YEARS

SEU
Skellefteå EnergiUnderhåll

Bana4

男子ロング 2

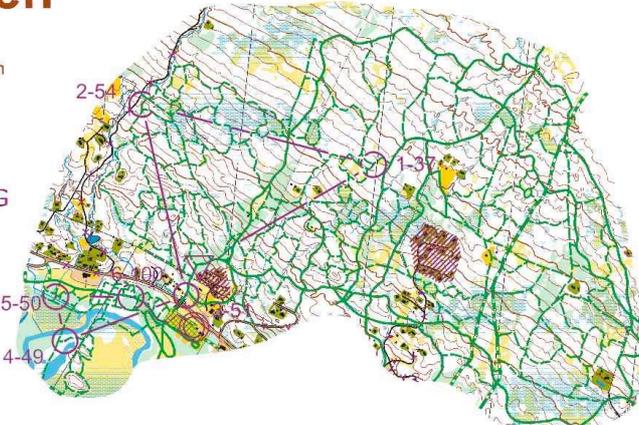
Ski-O map

Tännaldalen

Scale 1:15 000
Contour interval 5 m

WORLD
SKI ORIENTEERING
CHAMPIONSHIPS

Long distance
March 26 2011










bana9

男子ロング3

Ski-O map

Tännaldalen

Scale 1:15 000
Contour interval 5 m

WORLD
SKI ORIENTEERING
CHAMPIONSHIPS

Long distance
March 26 2011

Bana11

女子ロング 1

Ski-O map

Tännaldalen

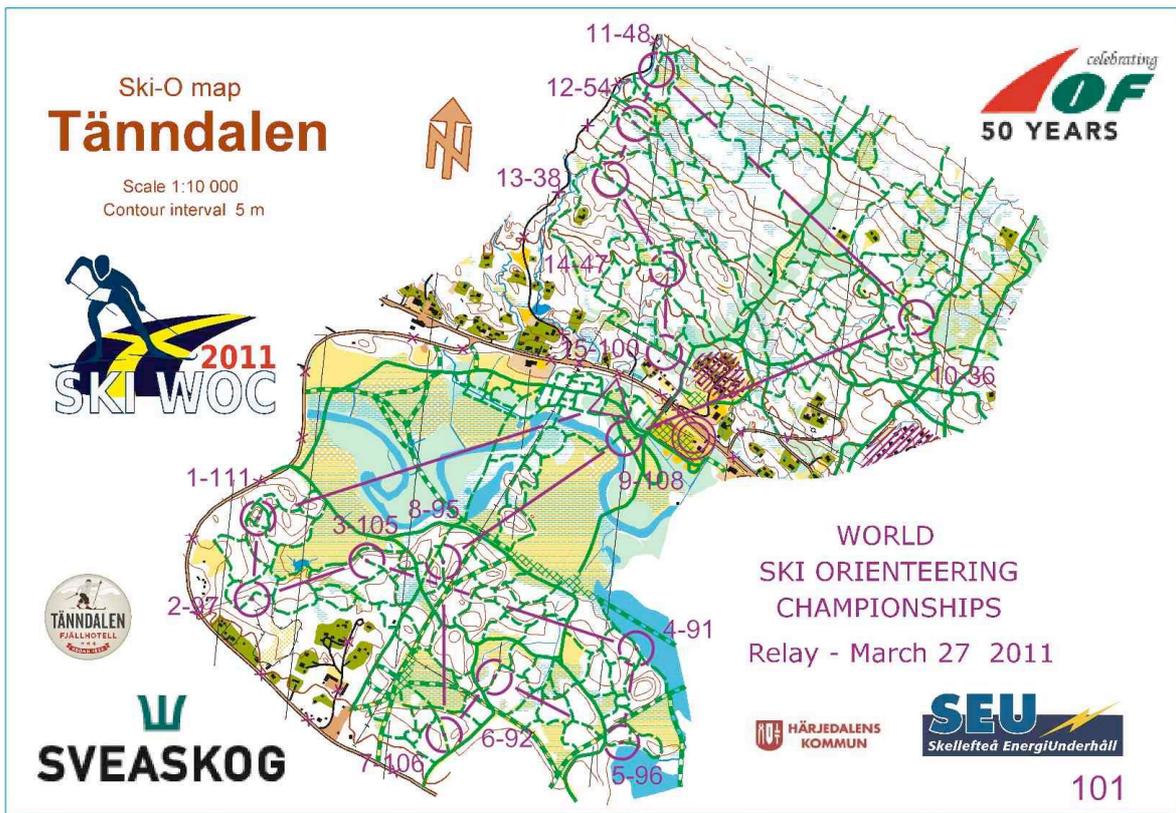
Scale 1:15 000
Contour interval 5 m

WORLD
SKI ORIENTEERING
CHAMPIONSHIPS

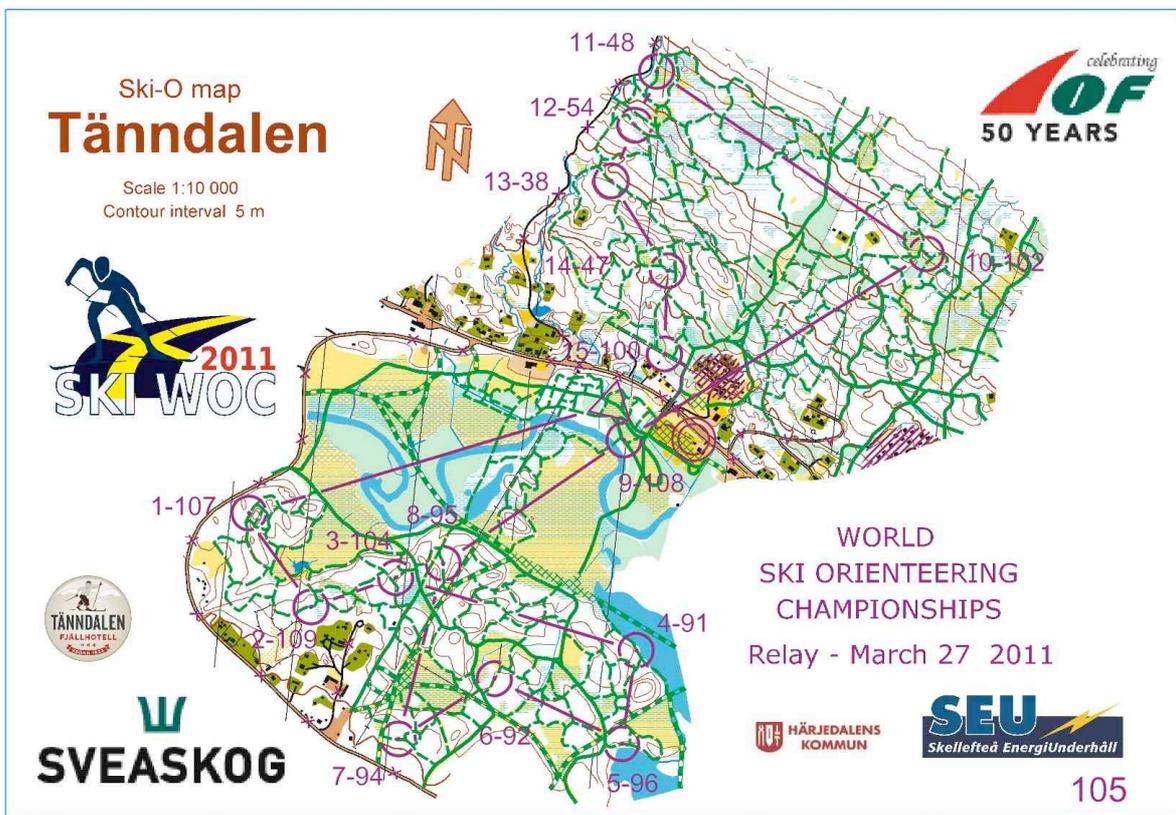
Long distance
March 26 2011

Bana24

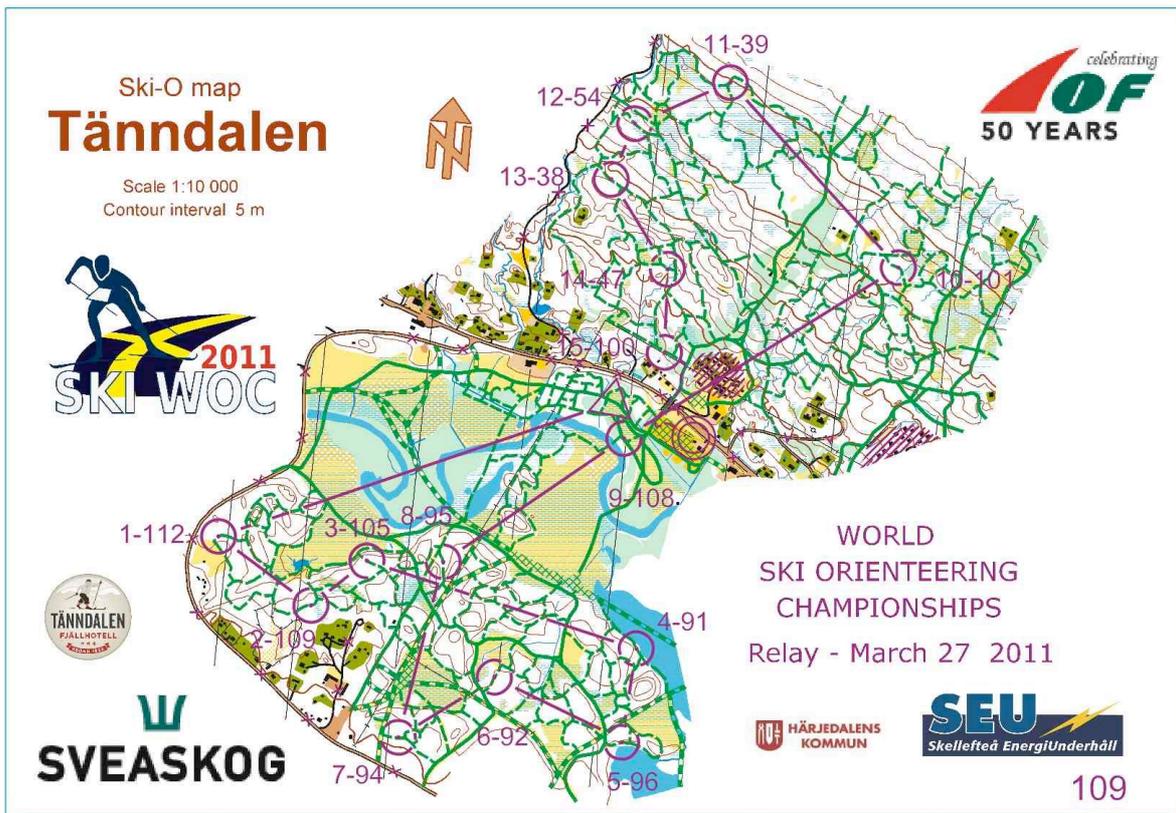
女子ロング 2



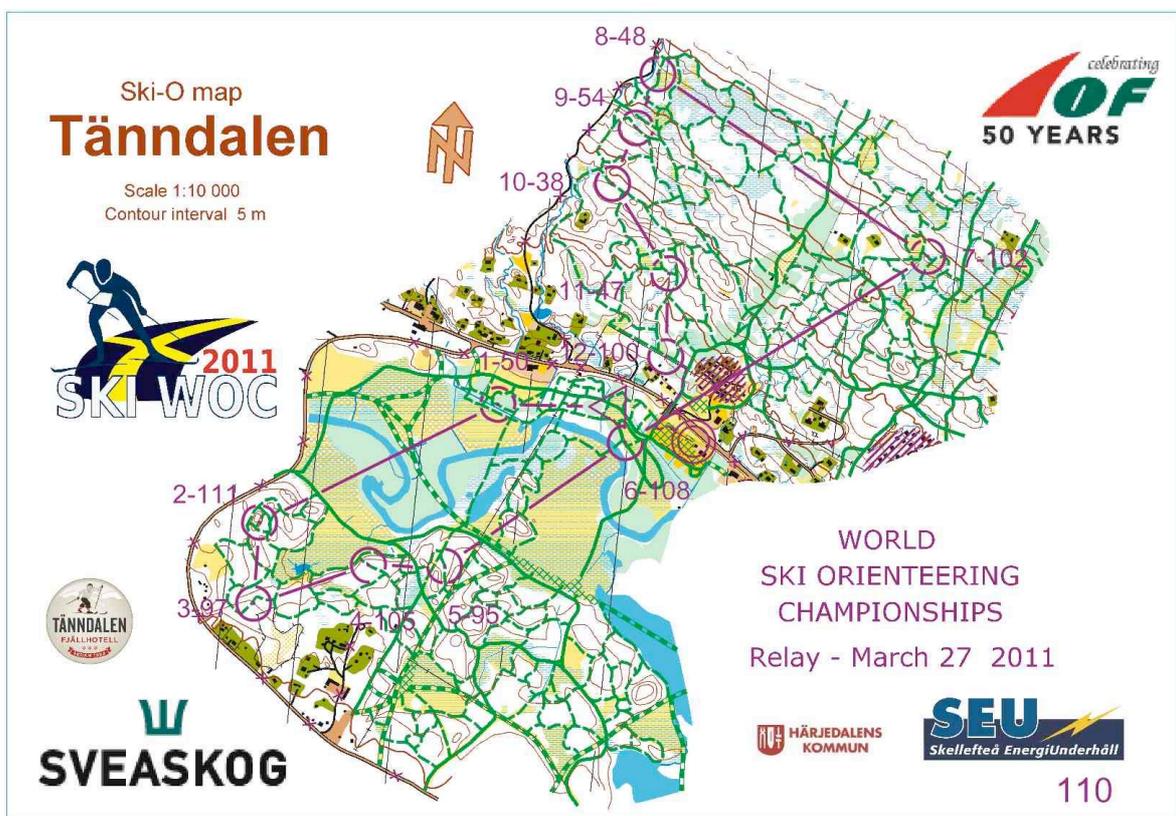
男子リレー 1



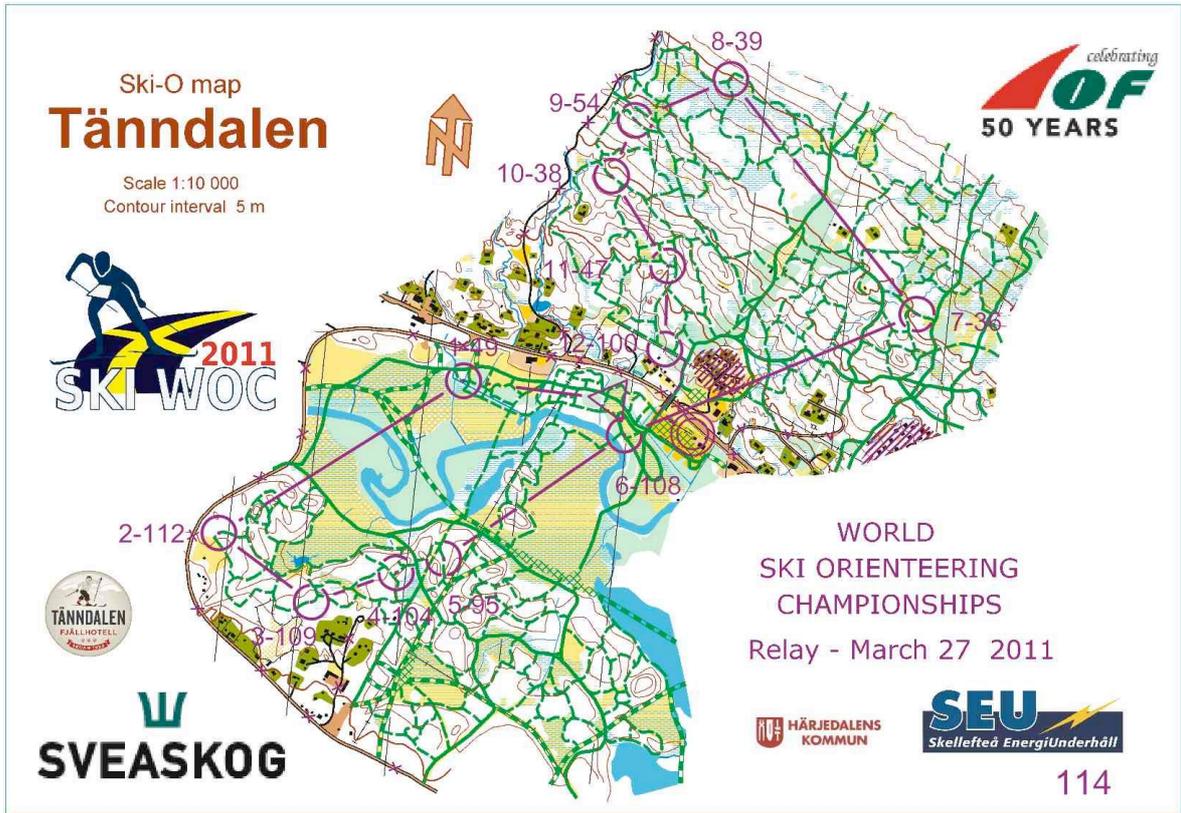
男子リレー 2



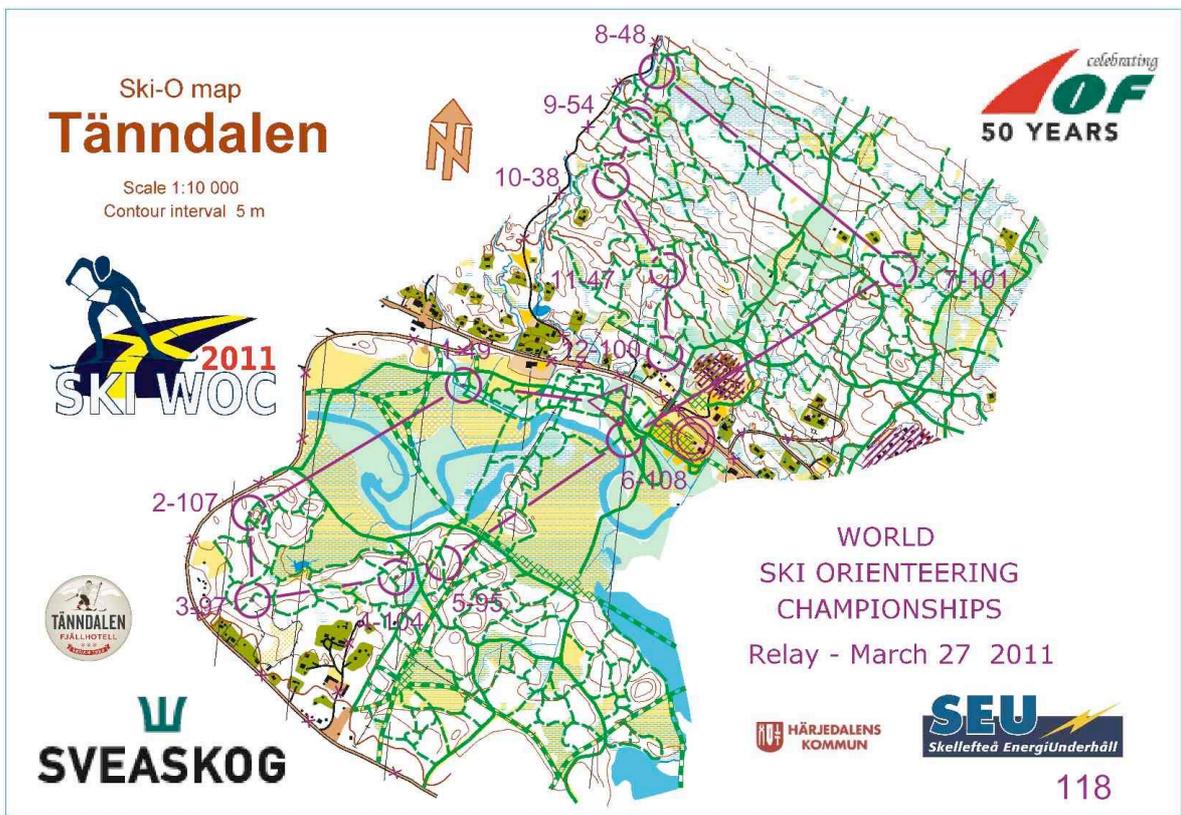
男子リレー 3



女子リレー 1



女子リレー 2



女子リレー 3

賛助金の御礼と報告

高校生に対する賛助金寄付者ご芳名

高校生 4 名の代表派遣に伴い、保護者負担軽減のため賛助金募金に大勢の皆様からご協力賜りました。心から厚く御礼申し上げます。

■ご芳名 (順不同、称号省略、お名前を頂戴した方のみ記載させて頂いています。)

荻野 浩司	奥村 昭博	鳥越 慎二	米沢 悟	有限会社ジェイエフデザイン
高橋 直博	今関 朝樹	小川 賢	小川 道子	豊田 孝子 轟 久義
播本 礼子	松浦 美都	山本 賀彦	大里 真理子	安達 利雄 山田 一善
水嶋 孝久	水嶋 直子	木村 佳司	山田 敦史	小林 岳人 高原 進
清水 由布子	本間 信行	弘中 進	永田 和博	菅谷 昌治 稲津 ゆかり
門 正之	錦 武郎	北 潔	森田 博	福谷 克之 永渕 和夫
矢内 大介	宮野尾 哲司	梅森 雅宏	荻田 香苗	星野 彬 佐々木 宏
豊島 ひろみ	濱田 百合子	浅見 節子	古川 一郎	稲垣 哲哉 江藤 恵男
岩川 満喜子	高橋 善美	鈴木 璋	田中 陽希	高橋 善徳 高島 和宏
柴田 達真	白土 英治	渡辺 研也	荻田 育徳	小野 盛光 北海道リレーチーム
武藤 拓王	多田 宗弘	松澤 俊行	小林 重信	岡本 豪 石川 昌
倉沢 勝美	ミツマ	小林 二郎	加藤 弘之	石井 龍男 三澤 儀男
色摩 喜八	渡辺 彩	平賀 ちあき	古居 由紀	志釜 香織 竹田 眞子
鈴木 智子	大竹 徹朗	奥山 遥斗	奥山 心結	有限会社アメニティ
菊地 良一	菊地 卓大	高岩 正至	渡辺 綺羅	サークルBbb 編集部
渡辺 来生	渡辺 季香	渡辺 里香	内山 陸美	Tomoko TATEMATSU
瀧川 英雄	植野 由香	高橋 仁紀	茅野 耕治	的場 洋輔 日下 雅広
福田 良雄	羽鳥 和重	武石 ケイ子	スキーO研究会	(株) 富士スポーツ

■全般会計報告 (単位：円)

<支出>		<収入>	
ワックス購入費	243,600	スポーツ振興基金助成金	1,842,000 ※
大会宿泊費	702,395	高校生賛助金	501,984
大会参加費	345,884	選手負担金	893,496 ※
振込手数料	8,340	寄附金	43,332
通信費	2,970	雑収入	1,360
交通費	191,681	収入合計	3,282,172 ※
宿泊費	44,556	残金	0
渡航費	1,672,200		
食料・礼状はがき	44,692		
雑費	25,854		
支出合計	3,282,172		

※ スポーツ振興基金助成金は未確定金額であり、確定金額次第で変化が生じる。

平成 23 年 4 月 21 日 会計担当 武石雄市

おわりに

震災の被害が収束する気配も見られない中、同僚、友人、家族のいる日本を離れ、世界選手権に参加するという決断を下すのは、私たちにとって容易なことではありませんでした。

そんな中、人智を超えた災害の前にスポーツの無力さを感じながらも、今この時に日本代表という立場にいる私たちに何ができるのか？と考えた結果、出した答えが「他国の参加者に日本人の思いを直接伝えること。」そして、義援金を募ることでした。その成果をここに報告致します。

義援金

参加各国より、日本円に換算して 111,041 円を義援金として受け取りました。この義援金は全額日本赤十字社に寄付させて頂きました。

<内訳>

70 スイスフラン

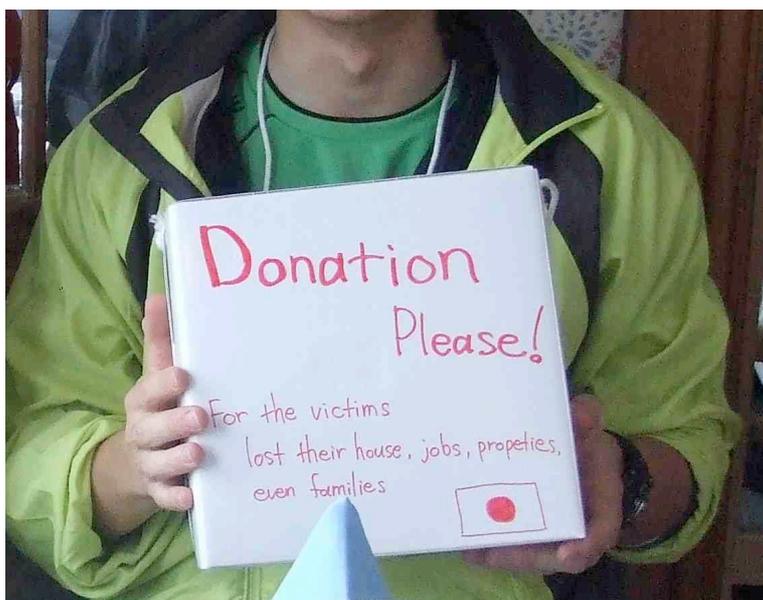
460 ユーロ

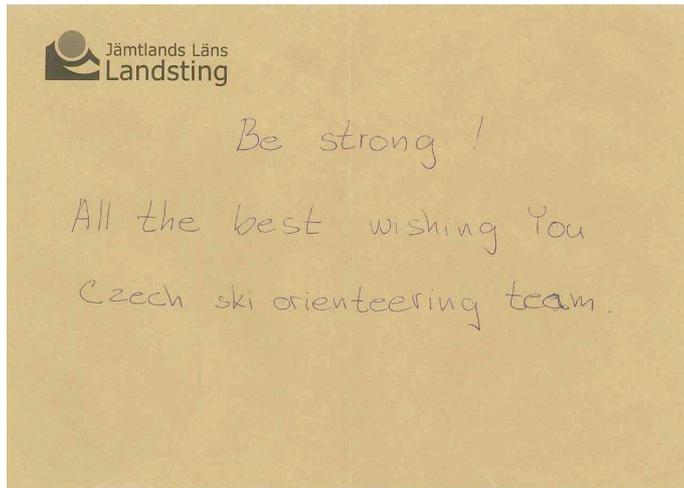
1600 ノルウェークローナ

2610 スウェーデンクローネ

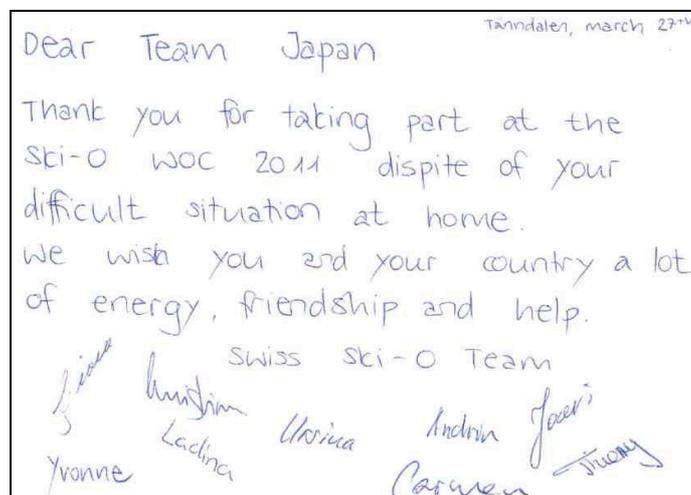
40 アメリカドル

以上。





チェコ選手団のメッセージ



スイス選手団のメッセージ



スウェーデンのオリエンテーリング誌にも
インタビューが取り上げられた。

2011年 スキーオリエンテーリング世界選手権報告書

発行日 2011年5月31日

発行者 日本オリエンテーリング協会 スキーオリエンテーリング委員会

編集者 2011年スキーオリエンテーリング日本代表選手団